

I-12.令和3年度「伝統芸能用具・原材料に関する調査事業」

Survey research on tools and raw materials of traditional performing arts

 キーワード	伝統芸能、用具・原材料、技術、継承、地場産業・地域資源
Key Word	Traditional performing art, tools / raw materials, techniques, succession, local industry and resources

1 調査の目的

伝統芸能諸分野では、邦楽器をはじめ衣裳、小道具類等、実演に不可欠な用具が数多く使われているが、令和2年度実施の調査を通じて、近年の様々な情勢の変化に伴い、用具製作の技術者や原材料生産の担い手が減少し、供給が途絶えるなど、伝統芸能の実演家等の中で用具・原材料の入手困難な状況が深刻化している実態が明らかになった。伝統芸能の確実な継承のためには、これら用具を将来に渡って安定的に確保・供給することが重要であり、用具製作の技術者や原材料供給に関わる担い手の養成・技術継承等、実効性のある方策と関係者の取組が必要となると結論付けられた。

このため、本調査は、伝統芸能の確実な継承を図るため、関係する諸団体等の協力を得つつ、入手困難等の状況にある用具・原材料やその製作・供給を担う技術者等が抱える問題点等の実情を把握し、その持続的・安定的な確保に資する方策を検討することを目的として実施したものである。

2 調査の概要

2.1 事業実施方針

本調査事業の実施にあたっては、過年度の同種調査等において浮き彫りになった課題等を踏まえつつ、本調査の継続性・次年度以降の展開等を考慮し、これまでの伝統文化に係る調査経験を生かし、次の点を重視して実施した。

- 過年度の類似調査の成果を踏まえた調査・情報収集の実施（入手難の用具・原材料の実態及び実演家、製作技術者から課題等を詳細に把握する）
- 関係者間の連携・取組促進を重視（関係者の取組に資することを重視して、調査結果をとりまとめ、成果として提供する）

2.2 検討プロセス

2.2.1 専門家による調査委員会の設置

議題とする用具・原材料の問題の深堀、将来的な技術継承、持続可能な製作環境づくり、次年度以降実施予定の調査課題の検討等を想定し、伝統芸能の用具製作や原材料入手、実演家の使用等の実情に精通した有識者等による委員会を構成し計2回開催した。また、用具・原材料の確保に向けた取り組みにおいて連携・協力・支援等を期待できる関係団体等をオブザーバーとして招聘し、調査結果や検討状況を共有し、今後の関係づくりとより望ましい成果を得ることとした。

2.2.2 実演家、関係者へのアンケート調査の実施

① 調査対象及び調査方法の検討

過年度調査から得られた成果・課題等を踏まえ、生産及び入手の困難度合、材料の枯渇や品質低下等の問題、担い手の状況等の観点から邦楽器等を中心に調査対象・調査内容等を検討し、併

せて調査委員会の運営方針についても検討・整理した。これを基に調査委員会において本年度実施すべき調査の基本的方針・内容・方法等を決定した。

② アンケート調査対象のリストアップ

前年度調査において、伝統芸能の実演家は、重要無形文化財各個認定保持者（芸能の部）、ならびに同総合認定保持者の団体の構成員、技術者については、選定保存技術保持者、ならびに同保存団体の構成員等を調査対象としたことを踏まえ、本年度は、実演家については、重要無形文化財（総合認定）の保持者の団体がない分野、具体的には、伝統芸能の土台を支える多くの邦楽器演奏家を有する琵琶、新内節、地歌・箏曲などの各団体をリストアップした。加えて、前年度は回答を得られなかった雅楽の分野にも再度調査への協力を依頼した。一方、技術者については、令和3年度に選定保存技術に選定された箏製作、三味線棹・胴製作の保存団体である邦楽器製作技術保存会など、邦楽器の製作及びその技術継承等を担う主要な団体の他、現状において選定保存技術に選定がない芸能関係の技術から人形浄瑠璃文楽の舞台技術者を選定した。

③ アンケート調査の実施（用具・原材料の製造・販売・利用実態等の把握）

前年度に検討したアンケート調査項目を踏まえ、調査の継続性、調査対象の類似性等を考慮し、用具・原材料の製造・販売・利用の実態と問題点の把握を目的とした選択肢方式と記述式を組み合わせ前年度と同一の質問項目によるアンケート調査票を作成し、上記調査対象に対して郵送を基本に実施した。回答結果は、入手難の状況や技術継承等の課題把握に役立つ観点から整理し、調査委員会において報告、調査結果の共有を図るとともに結果考察の深化を図りとりまとめた。

2.3 実演家、製作技術者等への聞き取り調査の実施

用具・原材料確保上の緊急性等を考慮し、聞き取り調査の対象とすべき用具・原材料とその製作技術者、実演家等を検討し、次年度以降の調査計画も見据えながら調査対象候補を選定。前年度に未実施であったジャンル等を優先的に実施することとし、大鼓革、象牙駒、三味線糸をはじめとした9件の実演家・製作技術者等を対象に、調査委員とともに現地訪問による聞き取り調査を実施し、それらの現場における用具・原材料の製作・生産販売、利用状況の実情と問題点、課題への対応状況、将来的な見通し等を具体的に把握し、持続的な用具・原材料の確保などの課題・問題等を整理した。

2.4 調査結果の整理

アンケート調査及び聞き取り調査等の結果をもとに、調査委員会の意見・助言を得つつ、浮き彫りになった課題・問題点について考察を深め、伝統芸能各ジャンルに関係する用具・原材料の実情等を分析・検討し、次年度以降の調査の展開等を念頭において、調査結果を整理、報告書を取りまとめた。

3 主な成果

3.1 調査結果の要旨

原材料の状況等から優先的に把握する必要があると考えられた邦楽器関係の分野をはじめ、前年度に聞き取り調査が未実施であった演芸関係及び人形浄瑠璃文楽の舞台大道具関係を含めた実演家、製作技術者を対象に実施した調査により、個別・具体的な実情や課題・問題点、さらに

それに対応する関係者の取組、今後に向けた意向等を把握でき、その主な要点を整理した。

- 1) 将来的な見通しの厳しさによる技術者の廃業・事業継承意向の減退
- 2) 国際的な物価高騰の将来に渡る影響を懸念
- 3) 需要縮小による製造・供給の途絶

3.2 見えてきた今後の課題

本年度調査では次の3点が今後優先的に検討すべき課題として浮かび上がり、締め括りとしてまとめた。

- 1) 原材料生産者など川上の担い手に対する支援
- 2) 情報共有のあり方と入手難の克服に向けた課題への取組
- 3) 次世代を担う人材育成・技術継承のあり方の検討